

あいち病害虫情報 最新情報

令和 7 年 8 月 1 8 日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

名古屋地方気象台 8 月 14 日発表の 1 か月予報によれば、向こう 1 か月の気温は高く、降水量は少なく、日照時間は多く、平年に比べ晴れの日が多い見込みです。

ほ場での病害虫の発生状況をよく観察し、適期防除を心がけましょう。作業は朝夕の涼しい時間帯に行くなど、健康管理に留意しましょう。

トビイロウンカ

8 月上旬に実施した巡回調査において、トビイロウンカの発生は確認されていません。また、予察灯においても誘殺されていません。近隣県では、三重県(紀北町)で 7 月 7 日、7 月 15 日及び 7 月 18 日に予察灯での誘殺が確認されています。県内においても飛来している可能性がありますので、今後の発生動向に注意してください。

斑点米カメムシ類

8 月上旬の巡回調査における水田内のすくい取り調査では、過去 10 年間と比較してやや少ない状況です。しかし、大口町に設置した予察灯において、イネカメムシの 7 月以降の誘殺数が多い状況です。イネカメムシは、今後、新世代が増加する時期に入りますので、近隣ほ場の発生状況に注意しましょう。防除対策については、7 月 16 日発表の「令和 7 年度病害虫発生予察注意報第 4 号」を参考にしてください。

ニカメイガ

弥富市の予察灯では 7 月中旬頃から成虫の誘殺数が多い状況が続いています。特に、近年被害の多い地域における遅い作型では被害に注意しましょう。防除対策については 7 月 2 日発表の「ニカメイガ情報第 1 号」を参考にしてください。

ダイズのシロイチモジヨトウ、オオタバコガ、ハスモンヨトウ

シロイチモジヨトウについては、8 月上旬調査で幼虫の寄生が広く確認されています。ダイズほ場に設置したフェロモントラップにおける誘殺数は平年並です。本種は近年増加傾向のため、発生状況に注意が必要です。幼虫の発生を確認したら速やかに防除しましょう。防除対策については、8 月 1 日発表の「令和 7 年度病害虫発生予察注意報第 6 号」を参考にしてください。

オオタバコガについては、8 月上旬調査における幼虫の寄生株率は平年並でしたが、ダイズほ場に設置したフェロモントラップにおける誘殺数は安城市及び西尾市で多く、豊田市ではやや多い状況ですので、今後も注意が必要です。防除対策については、8 月 1 日発表の「オオタバコガ情報第 2 号(ダイズ、野菜類、花き類)」を参考にしてください。

ハスモンヨトウについては、8 月上旬調査における幼虫の寄生株率は平年並です。ダイズほ場に設置したフェロモントラップにおける誘殺数は、弥富市、安城市及び西尾市でやや多く、豊田市では平年並の状況です。今後、高温及び小雨による乾燥が予想されることから、発生量がさらに増えるおそれがありますので、ほ場内を観察し、幼虫の発生や白変葉を確認したら速やかに防除をしましょう。防除対策については、8 月 1 日発表の「令和 7 年度病害虫発生予察注意報第 5 号」を参考にしてください。

果樹の病害

ナシ黒星病の発生ほ場では、来年の伝染源にならないよう被害落葉の処理を徹底し、収穫後の防除をしましょう。

7月下旬の巡回調査において、ブドウベと病の発病葉率は平年並ですが、発生の多いほ場が確認されています。そのため、薬剤防除や発病葉をほ場外に持ち出すなど防除を徹底しましょう。

果樹の害虫

クビアカツヤカミキリの発生地域が広がっています。6～8月は成虫の活動が盛んな時期です。果樹園（特にモモ）で成虫を確認したら、直ちに捕殺し、ほ場に登録農薬を散布し、農業総合試験場病害虫防除室もしくはお近くの農業改良普及課に連絡をお願いします。詳細は、7月2日発表の「クビアカツヤカミキリ情報第1号」を参考にしてください。

ナシのハダニ類の7月下旬の寄生葉率はやや多い状況です。ほ場での発生状況に注意して防除しましょう。

7月下旬に実施したヒノキ球果におけるカメムシ類の口針鞘（吸汁した跡）数による離脱時期の予測によれば、早いところでは既に新世代成虫がヒノキ林から離脱し、果樹園への飛来が始まっていると考えられます。県内各地におけるヒノキ林からの離脱時期の予測等は、8月1日発表の「果樹カメムシ類情報第3号」を参照してください。また、スギ・ヒノキ林の近くの果樹園では、台風通過などで突発的に飛来が急増することがあるので注意してください。

カンキツほ場に設置したチャノキイロアザミウマの粘着トラップによる7月以降の誘殺数は、平年並の状況です。本虫の防除適期は、成虫発生ピークの時期です。アメダス観測地点において有効積算温度を利用した成虫発生ピークの予測日（表）を参考に防除を行いましょう。

表 チャノキイロアザミウマの成虫発生ピーク予測日（8月18日計算時点）

	愛西	南知多	名古屋	大府	豊田	岡崎	蒲郡	豊橋	新城	伊良湖		稲武
第5世代	8/8	8/9	8/4	8/5	8/9	8/8	8/7	8/6	8/11	8/6	第4世代	8/16
第6世代	8/25	8/26	8/21	8/22	8/26	8/25	8/23	8/23	8/28	8/23	第5世代	9/5
（前年）	8/28	8/25	8/23	8/24	8/29	8/27	8/23	8/20	8/29	8/21	（前年）	9/5
前年差	3日早	1日遅	2日早	2日早	3日早	2日早	±0	3日遅	1日早	2日遅	前年差	±0
第7世代	9/10	9/12	9/5	9/7	9/12	9/10	9/9	9/8	9/14	9/8	第6世代	9/29

各地のアメダス平均気温から予測。8月17日までは実測値を、それ以降は平年値に+1.9℃補正した値を用いて計算。補正值は気象庁発表の向こう1か月の気温予測データを参考にした。

野菜・花き類はチョウ目害虫に注意！

オオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺数は、稲沢市、西尾市及び安城市で多く、長久手市でやや多い状況です。8月1日発表の「オオタバコガ情報第2号（ダイズ、野菜類、花き類）」を参考に、ほ場や育苗ほをよく観察して早期発見、早期防除に努めましょう。

シロイチモジヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は、長久手市でやや多く、その他の地域では平年並です。しかし本種は近年増加傾向のため、今後の発生に注意が必要です。8月1日発表の「令和7年度病害虫発生予察注意報第6号」を参考に、ほ場や育苗ほをよく観察して適宜防除しましょう。

コナガのフェロモントラップにおける誘殺数は、長久手市でやや多く、その他の地域で

は平年並です。ほ場や育苗ほをよく観察し、早期発見、早期防除に努めましょう。

ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は、長久手市のは場で多く、碧南市のは場でやや多い状況です。8月1日発表の「令和7年度病害虫発生予察注意報第5号」を参考に、ほ場や育苗ほでの発生に注意して適宜防除しましょう。

ハイマダラノメイガは、発芽、定植直後に加害されると被害が大きくなります。は種から定植時に薬剤を処理するなどして、初期被害を防ぎましょう。

育苗ほでは防虫ネットを設置してチョウ目害虫の飛来を防ぎましょう。

ブロッコリー、キャベツは黒すす病に注意！

近年発生が増加しています。本病は孢子により空気伝染し、病斑は下位葉から上位葉や花蕾へ広がり、一度発生が広がると防除が困難になります。育苗中は高温多湿を避け、早期発見に努めるとともに発病株は早期に処分しましょう。ブロッコリーでは一部系統の殺菌剤の感受性が低い菌株を確認していることから、薬剤選択は指導機関に相談しましょう。本病の詳細については、7月2日発表の「令和7年度病害虫発生予察特殊報第3号」及び7月16日発表の「ブロッコリー黒すす病情報第1号」を参照して下さい。

イチゴの炭疽病

7月下旬の巡回調査において、炭疽病の発生量は平年並ですが、今後の気温は高いと予想されており、注意が必要です。発生を確認したら、発病株は速やかに処分しましょう。発病株の周辺にある株は病徴が無くても同様に処分しましょう。親株で発生があった場合は、その親株から発生しているランナー、子株も処分しましょう。

イチゴのハダニ類

7月下旬の巡回調査でハダニ類の発生量が多い育苗ほ場がありました。本ほでのハダニ類を抑えるには、育苗段階での防除を徹底することが重要です。薬剤抵抗性の発達を防ぐため、気門封鎖型農薬などを組み合わせて防除しましょう。本ほにハダニ類を持ち込まないように、定植直前に炭酸ガス処理や薬剤灌注処理を行いましょう。苗浸漬処理を行う場合は、薬害を生じさせないために、高温時の処理は避け、薬液は処理直前に十分に攪拌してから使用しましょう。また、処理後の苗をハダニ類の発生した育苗ほに戻すと再度ハダニ類が寄生してしまうので、速やかに定植しましょう。

トマトのコナジラミ類

トマト黄化葉巻病の病原ウイルス（TYLCV）を媒介するタバココナジラミ、トマト黄化病の病原ウイルス（ToCV）を媒介するタバココナジラミ及びオンシツコナジラミの本ほへの侵入を防ぐために、定植前に施設開口部に防虫ネット（目合 0.4mm以下）を設置するとともに、苗でのコナジラミの施設持ち込みに注意して、早期防除に努めましょう。詳細は本日発表の「コナジラミ類情報第1号（トマト）」を参考にしてください。

トマトキバガ

複数地点のフェロモントラップで誘殺されており、施設内での発生も確認されています。7月16日発表の「トマトキバガ情報第1号」を参考に、施設開口部に防虫ネット（目合 0.4mm以下）を設置して施設内侵入を防ぐとともに、農薬による防除を行いましょう。疑わしい被害葉及び果実は、ほ場やハウス周辺に放置せず、速やかに土中深くに埋却するか、ビニール袋で一定期間密閉し、寄生した成幼虫を全て死滅させたいうえで、適切に処分しましょう。ほ場で初確認した場合は、病害虫防除室またはお近くの農業改良普及課へお知らせください。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/index.html>）を参照してください。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室 TEL 0561-41-9513 FAX 0561-63-7820
